



経済産業省
近畿経済産業局

「近畿経済の動向」2023年9月公表分 別紙 トピックス

コロナ禍前と比較する 近畿の百貨店販売状況

～「回復」から「コロナ禍前超え」へ～

令和5年9月21日

近畿経済産業局

- 2022年10月の水際対策緩和に伴うインバウンドの回復、および2023年3月のマスク着用ルール変更、同年5月の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行といった、「コロナ禍前への日常回帰」に伴い、個人消費は緩やかな改善が続いている。
- 近畿地域の百貨店・スーパー販売額は、2021年10月以来22か月連続で前年同月を上回っている。
- 特に百貨店は、2022年3月以来17か月連続で前年同月を上回り、全国を上回る回復を見せるなど、近畿の個人消費が改善する中において大きな存在感を示している。
- そこで、近畿の百貨店に着目し、コロナ禍前からの回復状況について、主に2019年との比較による分析を行った。

※「百貨店・スーパー販売状況（近畿地域）」における百貨店及びスーパーとは、従業者50人以上の小売事業所であって次のいずれかに該当するものです。

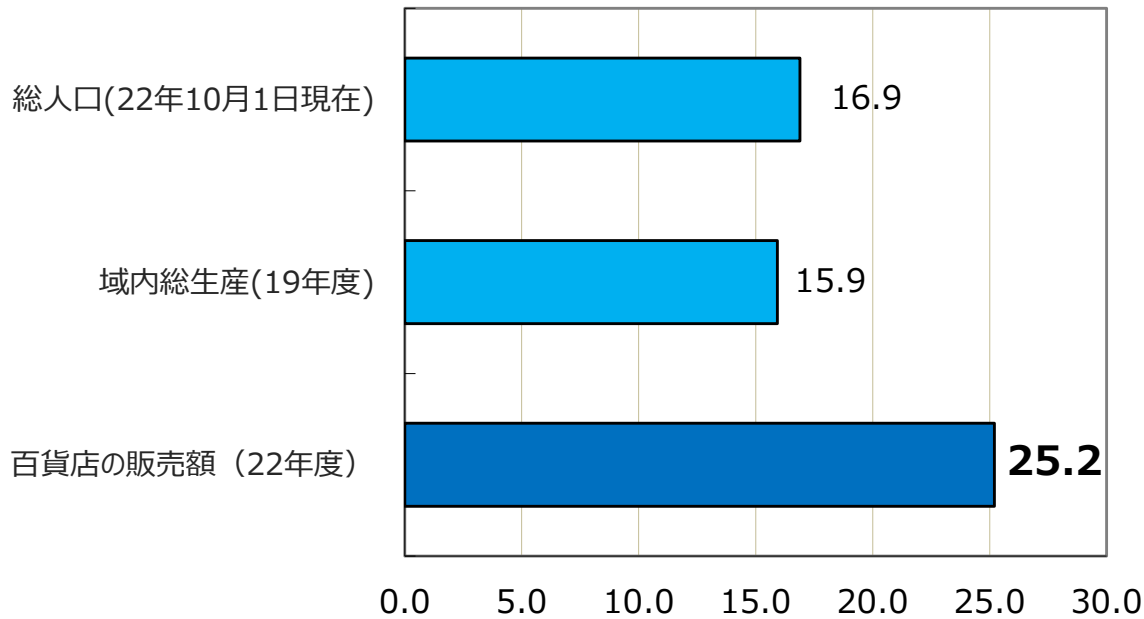
(1) 百貨店：日本標準産業分類の百貨店、総合スーパーのうち(2)のスーパーに該当しない商店であって、かつ売場面積が特別区及び政令指定都市で3,000㎡以上、その他の地域では1,500㎡以上の事業所。

(2) スーパー：売場面積が1,500㎡以上で、その50%以上において、セルフサービス方式を採用している事業所。

近畿の百貨店の特徴①

- 対全国比で見ると、総人口16.9%、域内総生産15.9%に対し、百貨店販売額のシェアは25.2%と高い。
- 1店舗あたり、従業者1人あたり、売場面積1㎡あたり販売額のいずれも全国を上回る。

全国における近畿地域のシェア (%)



近畿と全国の比較

2023年7月	1店舗あたり 販売額 (百万円)	従業者1人あたり 販売額 (万円)	売場面積 1平方メートル当たり 販売額 (万円)
近畿	3588	1069	12
全国	2749	943	10

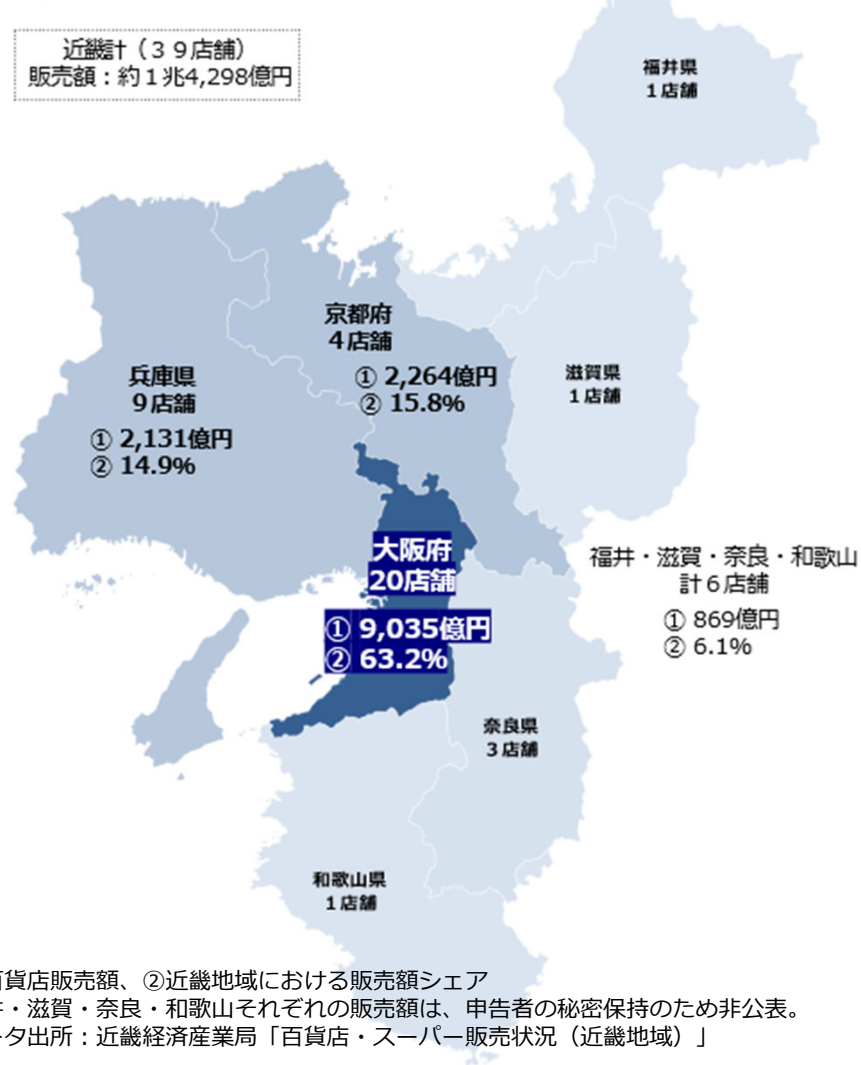
近畿：福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府5県

出所：人口推計（総務省）、県民経済計算（内閣府）、商業動態統計（経済産業省）、百貨店・スーパー販売状況（当局）

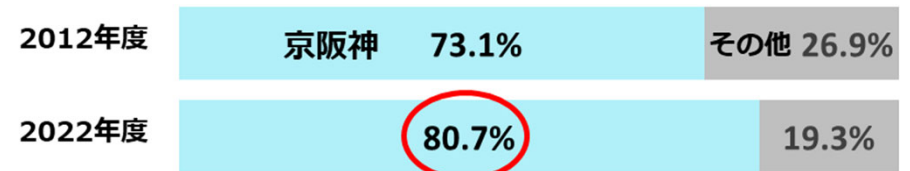
近畿の百貨店の特徴②

- 各社が旗艦店への経営資源の集中を進める中、近畿における京阪神のシェアは8割を超える。
- 特に大阪・梅田地区は百貨店激戦区であり、西日本最大のターミナル駅に隣接するとあって、近畿以外の消費者も取り込んでいる。

近畿地域の百貨店市場（2022年度）

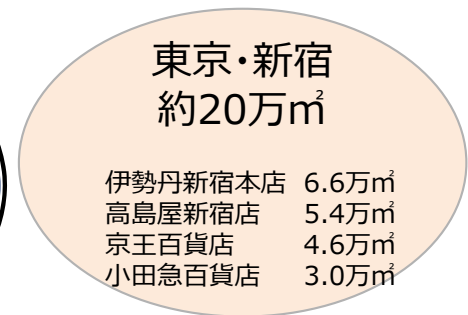


■ 近畿における京阪神のシェア（10年前との比較）



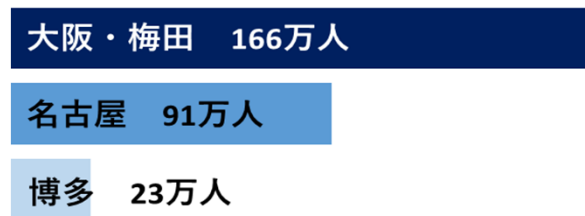
※京阪神：京都市、大阪市、神戸市

■ 売場面積の比較 大阪・梅田は東京・新宿を凌ぐ規模



【出所】日経MJ「22年度百貨店調査」

■ 1日あたりの駅別乗降客数 西日本では大阪・梅田が最大



【出所】国土数値情報（国土交通省）

※JR、私鉄、地下鉄の1日あたりの駅別乗降客数を合計したもの（2021年）

※ ①百貨店販売額、②近畿地域における販売額シェア

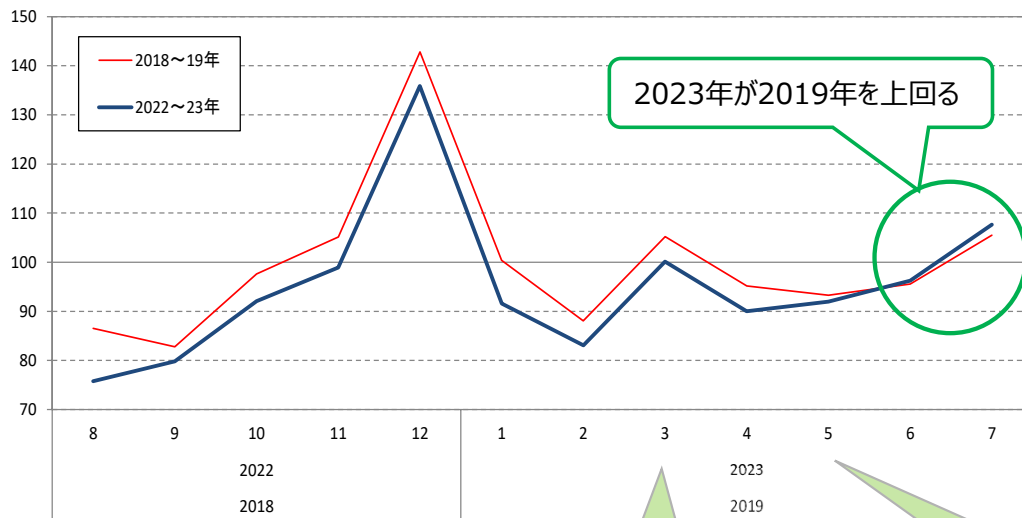
※ 福井・滋賀・奈良・和歌山それぞれの販売額は、申告者の秘密保持のため非公表。

※ データ出所：近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況（近畿地域）」

近畿の百貨店販売動向（コロナ禍前との比較）

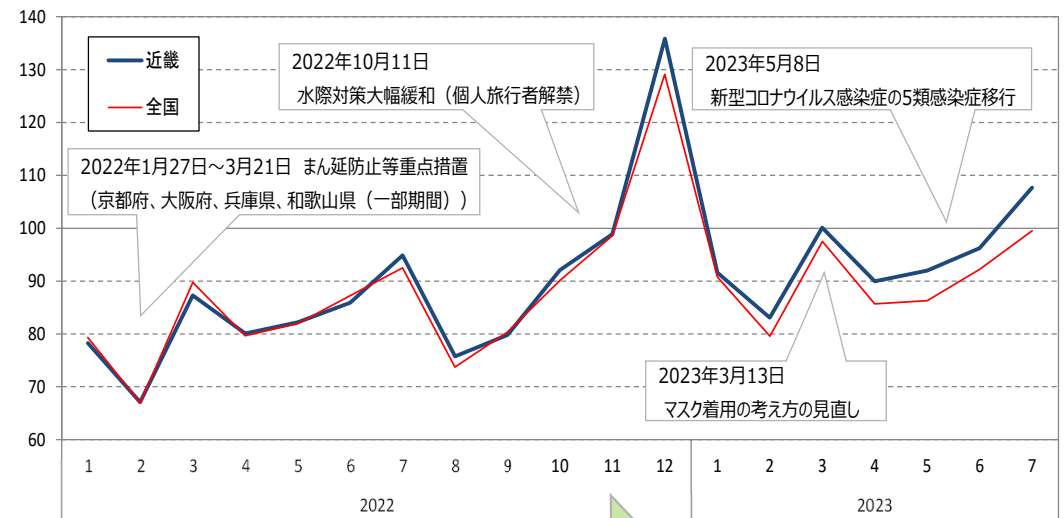
- 「百貨店・スーパー販売状況」公表データから、近畿および全国の2019年百貨店販売額平均を100として指数化し、コロナ禍前後での販売額の推移を比較。
- 過去1年間とコロナ禍前の同時期で近畿の指数を比較したところ、2023年6月にコロナ禍前の指数を上回り、7月はその差がさらに拡大。近畿の百貨店販売額はコロナ禍前を上回る水準に達している。
- 全国と近畿の比較では、2022年10月の水際対策緩和以降、近畿は全国を上回るペースで回復している。

コロナ禍前後の近畿の百貨店販売額比較(8月～7月) (2019年=100として指数化)



データ出所: 近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況(近畿地域)」

近畿と全国の百貨店販売額比較 (2019年=100として指数化)



データ出所: 近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況(近畿地域)」

「百貨店・スーパー販売状況(近畿地域)」掲載コメントから

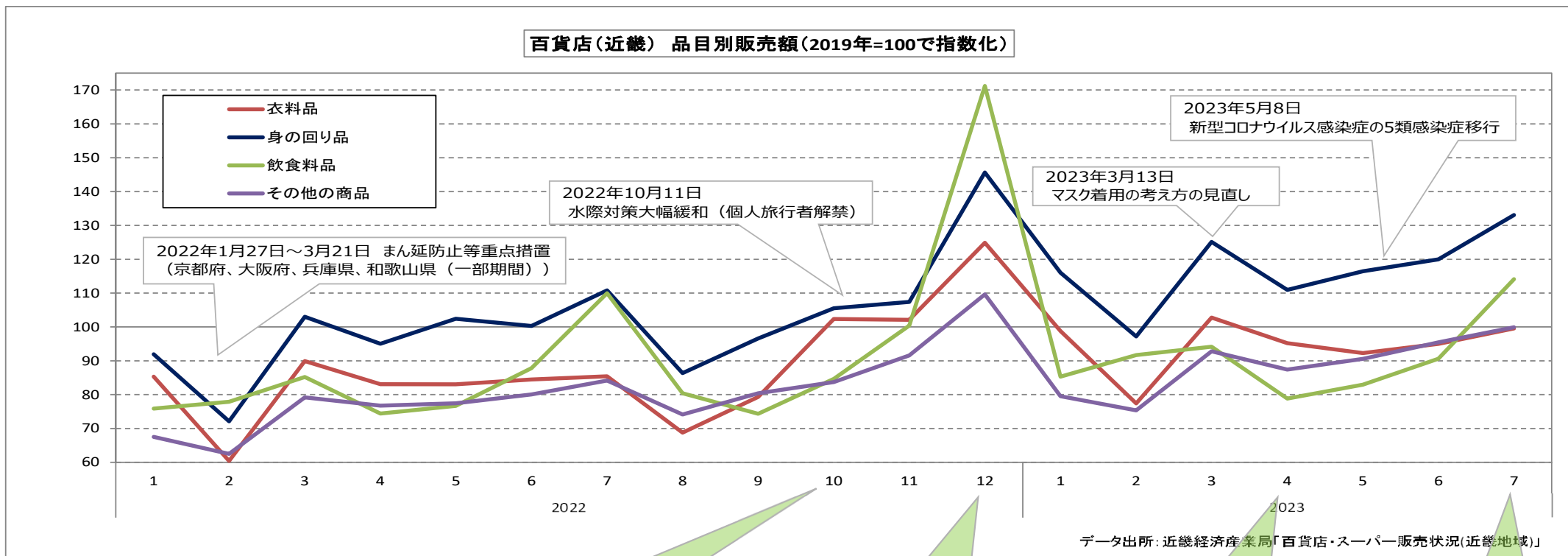
2023年3月速報
「外出機会が増加し、ファッション全般の需要が回復したところ、入学・卒業式等セレモニー需要がプラスされた。」

2023年5月速報
「化粧品は新型コロナ5類移行に伴いマスクを外す機会が増え、リップや基礎化粧品が好調。インバウンドの拡大にともない、国産の基礎化粧品の売上げが増加。」

2022年11月速報
「入国制限の緩和により、インバウンド需要が回復。円安の影響もあり、ラグジュアリーブランドの高額品や化粧品などを中心に販売額が増加。」

近畿の百貨店販売動向（コロナ禍前との比較・品目別）

- ブランド品のバッグなど高額商品も多く含まれる「身の回り品」が回復をけん引しており、宝飾品、時計、化粧品などの「その他の商品」にも回復傾向が見られる。
- 富裕層やインバウンドに支持されている高額商品はコロナ禍前を上回る勢いで回復。衣料品や飲食料品なども足下では回復基調にある。



「百貨店・スーパー販売状況(近畿地域)」掲載コメントから

2022年10月速報
「アクセサリや鞆などラグジュアリー関連商品が、引き続き売上げを牽引。また、気温の低下や全国旅行支援により、外出用の婦人服、紳士服などが好調。」

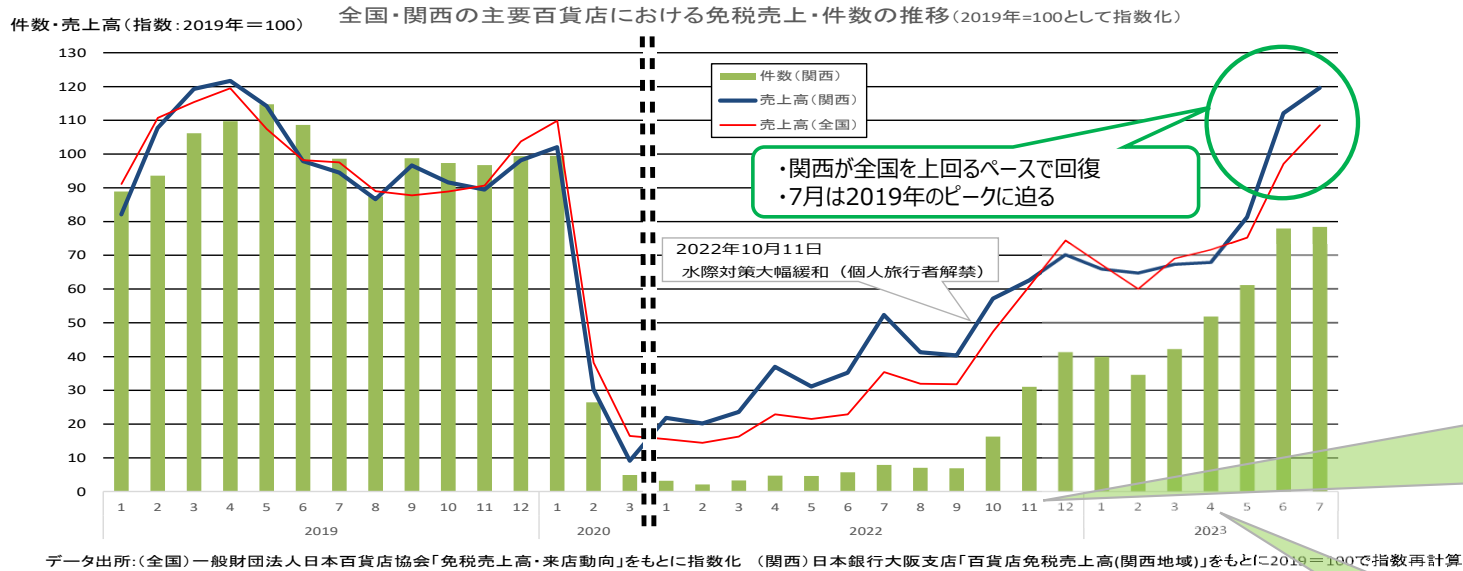
2022年12月速報
「ファッション、時計、宝飾品などラグジュアリー関連商品の販売は、インバウンド需要復調も加わり、引き続き好調に推移。」

2023年4月速報
「外出機会の増加やマスク着用ルール変更、コロナ5類移行に向けて化粧品やボリュームゾーンの衣料品の動きも良かった。」

2023年7月速報
「気温高を受けて、サマーニットなどの盛夏商品やサンダルなどの身の回り品などが活発に動いた。」

近畿の百貨店販売動向（コロナ禍前との比較・インバウンド）

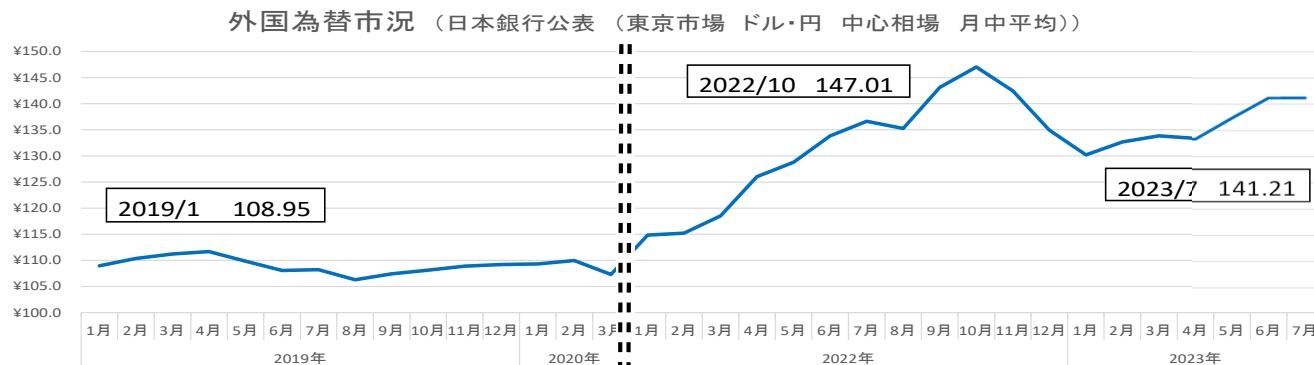
- 2022年10月の水際対策緩和による訪日外国人数の増加とともに、関西の主要百貨店免税売上は全国の主要百貨店を上回るペースで回復を続けている。
- 免税売上の件数ではコロナ禍前には及ばないものの、売上金額は2019年のピークに迫っており、購入単価の上昇がうかがえる。百貨店からは円安の影響で単価の高い高級ブランド品や宝飾品、時計などにインバウンドの人气が集まっているとの声が聞かれる。



「百貨店・スーパー販売状況
(近畿地域)」
掲載コメントから

2022年11月速報（再掲）
「入国制限の緩和により、インバウンド需要が回復。円安の影響もあり、ラグジュアリーブランドの高額品や化粧品などを中心に販売額が増加している。」

2023年4月速報
「インバウンドも復調しており、特選ブティックや時計が好調。円安で割安感もある。購入される方は韓国や東南アジア系の方が増えている。」



当局では毎月初旬に「百貨店・スーパー販売状況（近畿地域）」を公表しています!

<https://www.kansai.meti.go.jp/1-7research/daiten/oogatakouri.html>

(イメージ↓)

News Release 経済産業省
近畿経済産業局

令和5年9月7日

百貨店・スーパー販売状況（近畿地域） （2023年7月分速報）

1. 概況

近畿地域の百貨店・スーパーの販売額は、前年同月比 **7.8%増**（全国5.9%増）と**22か月連続で前年を上回った**。

商品別にみると、「食料品」、「衣料品」等すべての商品が前年を上回った。

なお、既存店ベースでは同7.7%増（全国5.5%増）と22か月連続で前年を上回った。

2. 業種別の販売状況

(1)百貨店

百貨店39店の販売額は、高額品が好調だったことに加え、インバウンド需要や外出機会の増加で、衣料品や化粧品などが好調だったことにより、前年同月比 **13.5%増**（全国7.6%増）と**17か月連続で前年を上回った**。

商品別にみると、「衣料品」、「その他の商品」等すべての商品が前年を上回った。

なお、既存店ベースでは同13.5%増（全国8.8%増）と17か月連続で前年を上回った。

(2)スーパー

スーパー875店の販売額は、主力の食料品が価格上昇の影響で増加したことなどにより、前年同月比 **4.2%増**（全国5.2%増）と**10か月連続で前年を上回った**。

商品別にみると、「食料品」、「その他の商品」等すべての商品が前年を上回った。

なお、既存店ベースでは同4.0%増（全国4.3%増）と5か月連続で前年を上回った。

【業種別販売額及び前年同月比】 （単位：百万円、％）

	総 合		百貨店			スーパー				
	販売額		前年同月比		販売額	前年同月比		販売額	前年同月比	
	全店	既存店	全店	既存店		全店	既存店			
近 畿	342,486	7.8	7.7	139,925	13.5	13.5	202,561	4.2	4.0	
福 井	7,026	1.4	0.2	X	X	X	X	X	X	
滋 賀	22,256	2.3	2.4	X	X	X	X	X	X	
京 都	43,586	10.3	10.6	21,782	17.1	17.1	21,805	4.2	4.7	
大 阪	167,528	10.8	10.4	90,191	15.0	15.0	77,337	6.2	5.4	
兵 庫	74,722	4.3	4.6	20,272	8.0	8.0	54,450	3.0	3.4	
奈 良	18,029	3.0	3.0	X	X	X	X	X	X	
和歌山	9,337	2.7	1.3	X	X	X	X	X	X	
全 国	1,874,113	5.9	5.5	522,401	7.6	8.8	1,351,711	5.2	4.3	

※ Xはデータ秘匿により公表できない所

トピックとなる企業のコメントを紹介しています

○主なコメント

- ・ インバウンド需要の拡大もあり、ラグジュアリーブランドや化粧品が引き続き好調。(百貨店)
- ・ 連日の気温高を受けて、サマーニットなどの盛夏商品やサンダルなどの身の回り品などが活発に動いた。また、夏物衣料等のクリアランスセールとともに定価商材も良く売れた。(百貨店)
- ・ 食品はお惣菜の好調維持及び加工食品の値上げによる一品単価の上昇により堅調。また、気温高の影響もあり、夏物衣料がよく売れた。(スーパー)

百貨店・スーパー販売状況（近畿地域） P2より抜粋

■ 次回公表予定
2023年8月分速報：10月6日（金）